

第4回

平成16年6月6日(日)午後2時～4時

榎町地域センター

合澤委員・金澤委員・小林委員・鈴木委員・松永委員
管理課長・副参事(少子化対策計画担当)・児童家庭課
長・保育課長
参加者15名(男6・女9)



計画に対する意見・提案

子どもの権利

「子どもの権利を大切にする」との記述があるが、「子どもの権利」とは何かについても記述したほうがよい。

豊かな心の育成

保育園では子どもに怪我もさせないために、のびのびと自由に遊ばせることを制約しているのではないか。「子どもの生きる力と豊かな心を育てる」には、多少の擦り傷位も子どもの成長の糧となる。

海外での子育ての経験から、日本では子ども達が守られすぎているように感じられる。様々な困難を乗り越えることにより、子どもも親も強くなる。

中高生対応

児童館の中高生スペースは、規制をなくし、何も成果を求めないような場所にしてほしい。

問題をもった子どもが1人でもふらっと行ける場所があり、そこに話を聞いてくれる大人がいるような場所があったらよいのでは。

総合的窓口

子どもたちが自由に使える児童館にしてほしい。

子育ての問題についての総合的な窓口を作ってほしい。

世代間交流

保育園・児童館・ことぶき館の合同施設において、もっと各施設の交流があってよいのではないか。

経済的支援

2人目の子どもが生まれ、経済的な面が心配である。

地域の子育て支援

大人が子どもに声を掛けるなど、大人の側から子ども達に働きかけ地域力の子育て力をアップさせるべきだ。

榎町地域について

小学校のPTAに地域活動を手伝う係を設置することにより、地域との連携がとれ、うまくいっている。

地域の子育て支援活動が盛んだが、子どもが少なくなり、地域の各団体の行事が子どもたちの負担になっている傾向があるので、各団体の連携を深めて行事の整理が必要。

その他

保護者の住所・電話番号が非公開なので保護者同士の繋がりが持てない。

父母会を支援するシステムを作ってほしい。

策定協議会委員の意見・提案

経済的支援を望む声は多いので、考え方を整理する必要がある。

学校が次世代育成支援に努力しているようだが、通学している関係者以外には、何を考えているのか分かりづらい。

地域のとの協働事業については様々な事業が実施されているが、北山伏協働モデル事業のみに集約されているのではないか。